

「社会と情報」に座学を取り入れた授業の実践報告

大阪府立りんくう翔南高等学校 千葉 緑

本校の「社会と情報」は実習中心の授業だが、情報モラル教育をはじめとした座学を取り入れた授業展開は必要不可欠である。しかし、学校の状況により実習以外を取り入れることが難しい学校もあるだろう。そのため、昨年度情報モラルを中心とした座学を取り入れる方法として、情報モラル・セキュリティの標語作成や情報モラル授業プログラムを使用した情報モラル教育等を行うという発表を行った。今回は、実際に取り入れることが出来た授業内容の実践報告を行う。

1. はじめに

本校大阪府立りんくう翔南高等学校は、普通科総合選択制の高等学校として 2009 年に開講した学校である。この普通科総合選択制とは、1 年生で共通履修科目を中心に基礎基本の学習を行い 2 年生からは必修科目と希望進路に応じた「エリア」や「自由選択科目」を選択する。「エリア」とは、生徒の興味・関心に応じたテーマに係る科目のまとまりのことである。また「自由選択科目」とは、基礎学力を充実する科目・発展的学習をつける科目・地域の特性を生かした科目など、様々なタイプを約 70 科目用意している。表 1. は、情報関係の授業科目をまとめたものである。

昨年度、「社会と情報」の授業を変えよう」と題して実技中心の授業の中に座学を取り入れるために発表を行った。本稿では、昨年度行うことができた座学についての報告を行う。

1.1 生徒の「技術・家庭」の履修状況と情報機器利用状況

本校の 1 年生 241 人に昨年と同様の「技術・家庭」の技術分野の履修状況等に関するアンケートを行った。

技術分野の履修状況については、(A)材料と加工、(B)エネルギー変換、(C)生物育成、(D)情報の 4 分野があり、複数回答可でアンケートをとった結果、(A)材料と加工を履修している生徒が 88.4%(213 人)と多く、(D)情報については 36.9%(89 人)と昨年度よりも多い結果となった。また、分野に関係なく授業で PC を使用した生徒は、全体の 92.9%(224 人)となった。このことから、情報に関する授業の有無に関わらず、PC を使用した経験がある生徒は昨年度同様多いことが分かる。

情報機器利用状況としては、携帯電話所持が 100%(239 人)であり、そのうちの 87.4%(209 人)が 1 台所持、10.9%(26 人)が 2 台所持、2.9%(7 人)

表 1. 本校の情報関係の授業一覧

教科	科目	検定
情報	社会と情報	○●△
	(学)情報とプログラミング*2	△
	(学)情報ライセンス	○
専門科目 「情報」	情報メディア*	△
	情報の表現と管理	○
	表現メディアの編集と表現	×
商業	情報処理 I *	●
	情報処理 II *	●
	ビジネス情報	●
	プログラミング	×

がそれ以上の所持となっている。また、97.9%(236 人)が SNS を使用しコミュニケーションを取っていることがわかる。このことから、携帯電話を持っていると SNS を使用している可能性が高いと言える。

1.2 授業状況

本校の科目は、主に全国商業高等学校協会の検定対策を行う科目が多い。表 1. の検定欄にそれを示す。「○」はビジネス文書実務検定対策の科目、「●」は、情報処理検定対策の科目、「△」はその他検定が関わる科目、「×」は、検定対策ではない科目である。どの検定も実技問題と筆記問題があるため、両方の対策を授業で行なわなければならない。しかし、自宅に PC が無い生徒、自宅に PC があるが学校の PC とバージョンが同じではない等で統一した指導が行えないため、本校の授業では実技問題対策を行うことを主としている。そのため、筆記問題対策は日々の宿題や休み中の課題とすることが多く、模擬問題を行う以外では授業で行うことが難しいのが現状だ。

2. 2014 年度「社会と情報」授業実践

2.1 授業スタイル

授業スタイルとしては、毎日パソコン入力コン

1 (学) : 学校設定科目

2 * : エリア指定科目

ツールを使用してタッチタイピングの練習を行ってから実技練習を行う流れとなっている。実技練習については、1学期はワープロソフトの使用方法について、2学期は表計算ソフトの使用方法について、3学期はプレゼンテーションソフトの使用方法について授業を行う。

2.2 取り入れた座学内容

座学を導入することに抵抗がある教員もいるため、今回は情報モラルに関する内容とした。情報モラルにした理由としては、近年 SNS 上での危険行為、バイトテロ、漫画の無断投稿等の問題があり生徒にとっても身近であり、教員としても指導せず問題行動が起こるリスクを回避しなければならない問題と考えたためである。

まず夏休みの課題として、夏休み期間中にトラブルにならないために情報モラルを題材として、「ひろげよう情報モラル・情報セキュリティコンクール」の標語1人1作品作成する課題を出題した。課題説明時には情報モラルのDVDを見せ情報モラルについての学習も行った。その結果、標語については、「気をつけようと思った」「鍵を付けてるから絶対安全と思っていた」等の声があり、情報モラルについて考えさせることができた。

また2学期には、「考えよう、ケータイ・スマートフォン～情報モラル授業プログラム～」を行いインターネットの利用方法や付き合い方について学ぶ授業を取り入れた。この教材は、指導案等が付いており、教員側としても使用しやすく、また生徒にとっても最近作成された動画のためより自分のことと認識して授業を受けることができた。

そして冬休みの課題としては、3学期にビックデータを使用したデータ解析の授業を行うため冬休み期間中の起床・就寝・睡眠・勉強・部活動の時間・遊びの時間等を紙に書くという課題を出題した。この課題については、入力までは全クラスで行ったものの、授業では、時間数が足りず「社会と情報」の授業ではなく、3年生の授業でデータ解析の授業を行った。その結果、「Webにある情報が正しいかどうかは自分でしっかり見ないといけない」等を生徒自身で感じる事が出来た。

2.3 座学導入時の反省点

座学として情報モラルを多く取り入れたが、その場では分かっているものの継続した指導になっていなかった。また、態度の評価も行っていなかったため、年間を通して継続した指導と評価を行いたい。さらに、今回扱えなかった分野についても導入方法を検討していきたい。

3. 2015年度「社会と情報」授業予定

3.1 実技の授業内容

授業スタイルとしては、昨年度と同様に行う。但し内容として1学期は、ワープロソフト、プレゼンテーションソフトの使用方法について行い、2、3学期は表計算ソフトの使用方法について行う。表計算ソフトを1学期分に伸ばした理由として、if関数まで学習させたい、昨年度「社会と情報」では行えなかったビックデータ解析を行わせたいという思いからである。

3.2 座学の授業内容

情報モラルについては、各学期1回以上実施したいと考えている。時期は入学当初・夏休み・冬休み・春休み前として、DVD教材等を使用して行う。また、1学期観た内容に関する質問を2、3学期も行うことで継続した指導も行いたい。

夏休みの課題として、情報モラルの「標語」と「私たちの情報モラル・セキュリティ行動宣言」を1人1作品ずつ作成する課題を出題する。

2学期は、文化祭がありTシャツを作成するクラスが多いため著作権等に関する授業を行う。

冬休みの課題として、昨年度同様の課題を出題し、授業の中でデータ解析についても行いたい。

4. おわりに

「社会と情報」に座学を取り入れた授業の実践報告を行った。その結果昨年度よりも座学を多く導入することが出来た。しかし内容としては情報モラルが多く、今後は情報モラル以外の座学分野も取り入れなければならない。また、情報モラルに関しては心から本当に分かっているかどうかという態度の評価を行わなければならないのだが、今回行ってない。次年度は、この評価に関して継続した指導を行う等をして評価を行わなければならない。

参考文献

- (1) 千葉緑；「社会と情報」の授業を変えよう；全国情報教育研究会第7回大会（2014）

引用・参考サイト

- (2) 全国商業高等学校協会；<http://www.zensho.or.jp/puf/examination/>（最終閲覧日 2015/06/21）
- (3) NPO 法人企業教育研究会；考えよう、ケータイ；<http://ace-npo.org/>（最終閲覧日 2015/06/24）
- (4) 独立行政法人情報処理推進機構；ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール；<https://www.ipa.go.jp>（最終閲覧日 2015/06/24）
- (5) 日本情報処理検定協会；プレゼンテーション検定；https://www.goukaku.ne.jp/test_presen.html（最終閲覧日 2015/06/27）